



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第三十六号

平成二十四年四月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

「教師教育のトップランナー」 としての兵庫教育大学

兵庫教育大学副学長

福田 光 完



都道府県連携推進本部がスタートして3年が経過しました。この間、歴代会長のご尽力で整えられてきた同窓会組織を礎に、大学との連携による大学院同窓会の活性化がすばらしく進展し

ています。私は、都道府県連携推進会議をはじめ、平成22年度の岡山大会、23年度の岐阜大会にも参加する機会を得て、まさに同窓会の活性化を目の当たりに感じています。考えてみれば、

兵庫教育大学大学院同窓会のような組織は、大学の同窓会としては稀有な存在だと思えます。若い世代から、既に現場を引退された世代の各々の同窓生が教育に対する熱い想いを掲げ、意気投合されている様子を拝見すると、本学の教育に対する使命の重要性を身に染みて感じると

ころです。あと数年後には修了生の総計が1万人を超える大組織となりますが、大学との連携がうまく軌道に乗り続けて欲しいと思います。

国立大学も存在意義を発揮するため、ますます特色の明確化が求められています。本学も兵庫教育大学ミッション5項目を策定していますが、今回ミッションに加え、3項目のビジョンを掲げました。その一つが「教師教育のトップランナー」です。長期視野に立ったこれからの兵庫教育大学の方向性がこの言葉で表されています。これは、大学院設立以来、本学が30年以上にわたって変わらず、我が国の教師教育のトップを目指して歩んできた証でもあります。

もあり、大学院修了生の一人一人の努力添えの上に成り立っているものです。昨年12月には加治佐学長の発案で、第1回全国市町村教育長セミナーを行いました。全国から30名の教育長が参加しました。おそらく大学として、このような取り組みは初めてのことであり、兵庫教育大学でなければできないでしょう。学内の変化としては、ストリート大学院生に対する就職支援をさらに向上させるため、平成24年度には教職キャリア開発センターが組織され

ます。従来の就職支援をより高め、質の高い新入教員として就職希望のストリート院生等を送り出したいと考えています。また、教育面ではラーニングコモンズの設置・取り組みとして、小学校の教室を模した部屋を大学会館内に作り、実地教育に役立たせます。同時に図書館1階を大改装してよりオープンな環境を作ります。また、平成23年度からカレッジバスを授業終了後に3便走らせ、学生には好評ですが、平成24年度からは三宮と大学を結ぶ直通バスが朝夕往復します。修了生の多くが兵庫教育大学を「陸の孤島」と言っていた時代は終わります。

一方、国立大学法人となつて以来8年が経過しますが、財政的にはますます厳しい状況が毎年、大学経営の難しさを我々に突き付けています。言い換えれば私立大学に近い経営が求められることとなります。しかし、学生の学習環境や、大学院生の研究指導の質を下げるわけにはいきません。兵庫教育大学が教育現場に果たしてきた使命を忘れず、「教師教育のトップランナー」を目指すためにも、大学院同窓会のますますのご協力をお願いしたいところです。

大学院同窓会より、 東日本大震災復興支援金を寄附しました

大学院同窓会役員会

平成23年5月21日の大学院同窓会定例役員会において、教育復興支援にかかる寄付金をおくることが決定しました。東日本大震災でとりわけ被害の大きかった、岩手県・宮城県・福島県に復興支援金として各教育委員会に20万円ずつ寄付しました。

それぞれの教育委員会では、寄付された復興支援金をもとに、こどもたちの支援のために役立てたいというお礼の言葉をいただきました。

岩手県

岩手県川村評議員から岩手県教育委員会菅野教育長へ手渡されました。



「親御さんを亡くした子どもたちのために有意義に役立てていきたい。」とおっしゃっていました。

福島県

福島県永嶋評議員から福島県教育庁いわき教育事務所高橋所長へ手渡されました。



この復興支援金は、福島県内の児童・生徒の放射線被曝量を測定するための測定器購入にあてられる予定です。

宮城県遠藤評議員から宮城県教育委員会大内理事へ手渡されました。

宮城県



拝啓 盛夏の候ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

県政運営につきましては、日ごろ格別の御理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、お申し出のございました東日本大震災に係る寄附金につきましては、心から感謝を申し上げ、お受けいたしますとともに、宮城県内の災害復興のため有効に活用させていただきます。

私もふるさと宮城県を再興するため、県民の皆様と共に手を携えて全力で復興に取り組んでまいる所存です。

今後とも、県政の推進につきましては、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。 敬具

平成23年7月29日

兵庫教育大学大学院同窓会 遠藤 茂様

宮城県知事 村井 嘉浩

ブロック及び支部活性化のために、平成23年度の補正予算として、「ブロック会議経費」及び「支部活動助成金」として、それぞれ20万円の計40万円が承認され、平成24年度以降も継続の予定です。

申請と「予算配分委員会（仮称）」での審議は必要ですが、これらの助成制度を是非活用されたら如何でしょうか。

演 第31回兵庫教育大学大学院同窓会 岐阜大会

「岐阜の伝統文化 鵜飼の魅力」

講

講師 宮内庁式部職 鵜匠 杉山雅彦

鵜飼は、およそ一三〇〇年の歴史があり、時の権力者たちによって保護されてきました。特に、岐阜城の城主であった織田信長は、鵜を操る者に「鵜匠」という地位を与え、鵜飼を保護したと言われております。また、徳川家康もたびたび岐阜を訪れ、鵜飼を見物したということです。

様々な文献に鵜飼の記録が残っていますが、岐阜県では関市小瀬の鵜飼とこの長良川の鵜飼があります。昔は、郡上に宮内庁指定の区域があつて、献上するときには、そこまで行つてから鵜飼をしていたという記録があります。

鵜匠は宮内庁の指定で、以前は鵜飼が外国の要人の接待にも使われました。しかし、現在では警備上の問題もあり、舟に乗つての鵜飼観覧はほとんどなくなつてしまいました。

長良川の鵜飼では、六人の鵜匠が宮内庁に指定されています。正式な職名は「宮内庁式部職鵜匠」といいます。代々世襲で親から子へとその技が受け継がれています。宮内庁



・の伝統文化
鵜匠 杉山雅彦氏

より六人と定められていますので、それ以下になることはあつても、それ以上になることはありません。

鵜匠の家の長男はまた鵜匠になります。鵜匠の他にも、船を作るなどの仕事の世話をする仕事、篝火の準備をする仕事など、様々な仕事を家族や一族で行っています。つまり、鵜匠一人ですぐに鵜飼ができるわけではないのです。

私はこのように鵜匠の家に生まれて、小さい頃から、鵜匠である父親を見て育ってきました。夏休みになると、よその子がどこかへ連れて行つても、鵜匠の家では、一族で鵜飼関係の仕事を毎日行つたため、家族で出かけるようなことはありません。鵜匠の家では、鵜と一緒に生活をしていますから、三六五日が鵜の世話や鵜飼に関わる仕事の中での生活となるのです。

長良川の鵜飼は、毎年五月十一日の解禁日から十月十五日まで毎夜行われます。ただし、期間中、中秋の名月の日と長良川の増水時はお

休みです。中秋の名月の日に休むのは、鵜を休ませるという意味もあります。この期間以外に鵜飼を行うと違反となつてしまいます。

鵜にも個性があり、一匹一匹違います。また日によつて状態も違います。その日の鵜飼に使う鵜は、鵜の健康状態を見て、よく働いてくれそうな鵜を八羽ほど選び、鵜飼に連れて行きます。鵜と鵜匠の息が合わなければ漁はできません。

鵜飼は、鵜匠、鵜飼を手伝う助手、舟の舵を取る役の三人一組で行います。魚の活動が活発でなくなる夜に、魚を集めるために篝火をたいて行きます。鵜をつなぐひもの長さは、鵜が篝火の下で鮎を見ることが出来る長さになっています。

鵜匠の正装は、篝火から髪の毛を守るために風折烏帽子をかぶり、漁服を身にまとい、火の粉を防ぐ胸あてをつけます。腰からは腰蓑をつけるなど、古式ゆかしい装束です。漁服は、魚を驚かせないように黒または紺色です。ワラジは、足半^{あしなか}と言ひ、普通のわらじの半分ほどの長さで、魚の脂などですべらなくなつています。ワラジが大きいと水に濡れて重くなつてしまいます。

鵜飼で使う鵜は、野生の海鵜を訓練したものです。もともと敏捷な渡り鳥ですが、学習能力が高く、新しい環境



に順応しやすい性格です。鵜飼で良い働きができるようにするため鵜匠は毎日を共に生活し、二、三年かけて一人前の鵜に育て上げます。

鵜は食欲旺盛な鳥で、のどに魚をためることが出来る鳥です。鵜飼では、ひもを首の下にかけ、さらに羽の下に回し、はずれないようにします。すると、鵜は何匹もの鮎を食べます。食べた鮎を舟の上で出し、また、魚をします。このようにして鵜飼をするわけですが、鵜も体力を消耗しますので、のどのひもに緩みを持たせ、小さいサイズの魚を食べることが出来るように調整しています。

私の父は早く亡くなりましたので、鵜飼のことを叔父に教えてもらいました。とれた鮎は、卸売市場に翌朝持つていきますが、はじめは一生懸命に鵜飼をしても人の半分ほどしかなく、とても悔しい思いをしました。上手な人を見てみると、楽そうに鵜を操つて沢山の鮎をとっています。私は一生懸命に学び、うまくならうと努力しました。現在、息子も自分の見よう見まねで行っています。その道で生きていこうとするといつまでたつても勉強です。

(文責…岐阜県同窓会)

実践提案

「富加小学校にピア・サポート活動」
活動を定着させるために」

提案者 美濃加茂市立下米田小学校 校長 山田 日吉



【概要】

いじめ・不登校などの背景にある子どもたちのコミュニケーション能力の低下が叫ばれて久しくなる。このような状況の下で子どもたちにコミュニケーション能力の育成を進める予防・開発的な学校教育相談の推進が求められている。また、ピア・サポート活動が子どもたちのコミュニケーション能力の向上に大きく寄与したり、学校風土に良い影響を与えることが様々な学校で実証されつつある。

そこで、子どもたちのコミュニケーション能力の向上と、学校に活力があり「助け合い・支え合う」風土を創り定着させるために、ピア・サポート活動を取り入れた「特色ある教育活動」を進めたいと考えた。

一、主題設定の理由

ピア・サポートは、一九七〇年代中頃からカナダで始まり、その後イギリス・アメリカなどで展開され、日本にも一九九〇年代に入って広く知られ、日本の学校風土や教育に合わせ、実践も様々な形で展開されるようになった。筆者は「全ての子どもたちに人間的能力を身につけさせ、子どもたちどうしの助け合い・支え合いを可能にすることによって、学校全体を『思いやりの共同体』（ケアリング・スクール・コミュニティ）にする組織的な教育活動」

と表現されるような、いわゆる「コミュニケーション育成型」（岡山県教育センター、2009）のピア・サポート活動（以下PS活動）の推進は、学校風土の改善や向上にも寄与すると考えている。富加小学校でも全国的にも指摘されている「人間関係をつくる力の弱さ」「コミュニケーション能力の低下」が同様に指摘されていた。そこでPS活動を学校経営に位置づけることで子どもたちのコミュニケーション能力の向上に寄与し、活力があり「助け合い・支え合う」学校風土を生み出すことがで

きると考えた。更に、教職員の研修はPS活動についての理解を促進すると共に、その中で教職員同士の人間関係の向上をもたらし、教職員の連帯感や、協働意識を生み出すと考えて実践を進めることとした。

二、研究内容

（一）学校経営構想への位置づけ

- ① 学校経営構想図への位置づけ
- ② 年度当初の経営構想説明時における校長講話
- ③ 組織図にPS担当者の位置づけ

（二）校内に於ける教職員のPS研修

- ① 第一回職員会におけるSGE体験
- ② 全教職員の夏季PS研修
- ③ 五年生担任とのPS学習事前打合せ※SGE（構成的グループエンカウンター）
- ④ 六年生を中心としたPS活動の推進
- ① 既にあった助け合い活動
- ② 五年生のPS学習
- ③ 六年生時におけるPS学習

三、実践

（三）②五年生のPS学習

児童の実態を基にして、次の表一の学習計画で担任と筆者のTTで進めた。

四、考察

（一）成果

① 教職員のPS活動への理解の促進が

【H20 5年生ピア・サポート学習指導計画】（表1）

回	学 習 内 容
1	ウォーミングアップ（ピア・サポートについて）
2	あいさつもピア・サポート
3	聞き方・伝え方①気持ちを聞き取るには1
4	聞き方・伝え方②気持ちを聞き取るには2
5	聞き方・伝え方③伝え方
6	聞き方・伝え方④FELOR
7	ピア・サポーターになるために① ・頼むとき断るとき1
8	ピア・サポーターになるために② ・頼むとき断るとき2
9	ピア・サポーターになるために③ ・対立の解消1
10	ピア・サポーターになるために③ ・対立の解消2
11	ピア・サポーターの門出 ・サポートプラン作成
12	おまけの授業（フォローアップ） ・サポートプランの見直し ※この授業は6年生になって2ヶ月後に予定

できた。

② 「特色ある教育活動」に位置づけられた。

③ 六年生に「ピア・サポーター意識」が芽生え、リーダーとしての自覚と行動ができる児童が増えた。

④ 児童のコミュニケーション能力の向上や「助け合い・支え合う」PS活動が広がった。

⑤ フォローアップとして「おまけの授業」を六年生で学習することで、PS活動への認識が深まった。

（二）課題

① PS学習やその学習の成果を生かしたPS活動を主体的に進めようとする後継者の育成

② 授業内容の見直しと校長による授業から担任による授業への転換

③ 六年生児童のPS活動を推進するために「個人プログラム」の達成に関する助言指導を全校体制でできるようにすること（文責：岐阜県同窓会）



理科の学習では、「課題をつかむ」「見通しをもつ」「観察・実験をする」「交流する」「まとめ

(二) 概念を文章で表現する「言語化」を意図した指導の工夫

第3学年「日なたと日かげをくらべよう」
科学的な見方や考え方を高める「言語化の過程」を踏まえた単元構成
単元を構成するにあたり、従来の「単元指導計画」をもとに、「言語化」に関する「場」とその「手立て」を位置付けつつ、単元構想を試みた。これにより、児童の意識と学習内容をつなぎ、「科学的な見方や考え方」を高めることへつなげるようにした。

実践提案

「科学的な見方や考え方を高める 理科学習の在り方」

第3学年「日なたと日かげをくらべよう」の授業を通して

提案者 掛妻郡池田町立八幡小学校 教諭 中 島 勝 義

一、実践

第3学年「日なたと日かげをくらべよう」

(一) 科学的な見方や考え方を高める「言語化の過程」を踏まえた単元構成

単元を構成するにあたり、従来の「単元指導計画」をもとに、「言語化」に

関する「場」とその「手立て」を位置付

けつつ、単元構想を試みた。これにより、

児童の意識と学習内容をつなぎ、「科

学的な見方や考え方」を高めることへ

つなげるようにした。

(二) 概念を文章で表現する「言語化」

を意図した指導の工夫

理科の学習では、「課題をつかむ」「見通しをも

つ」「観察・実験をする」

「交流する」「まとめ

「日なたと日かげをくらべよう」 小3年

学習を終えて…「わかったよ！」

- 「かげ」は、太陽と反対側にできたよ。「太陽」が動くと「かげ」も動いたよ。
- 「太陽」は「東」から出て「南」を通って「西」に動いていったよ。
- 「日なた」と「日かげ」では、温度やしめり方がちがったよ。
- 「太陽」の光が土をあたためていることがわかったよ。
- ☆もっと「太陽」の「光」のことについて知りたいな。次単元「光を当てよう」へ

言語化：理科ノートへ「学習後の感想」を「記述」する。
「記述」した内容を、「グループ」のメンバー同士で「交流」し合う。
「学級全体」で「感想」を交流し、学習したことを「共有」する。

第2次「かげのうごきをしらべよう」(5)

- ☆太陽は1日の間で、どのように動いているの(1)【感性・意欲・態度】
太陽の動きと関係があるか。
- ☆太陽は1日の間で、どのように動いているの(2)【技能】
方位磁針や時計を使うと、1日の太陽の動きがわかるよ。
- ☆太陽の動きと「かげ」の動きはどうなっているの(3)【思考・表現】
太陽は東から南を通って西へ動いているよ。また、かげは、太陽とは反対の方向に動いているよ。

言語化：関意態→交流場面での発表
技能→つづきやき・記述
思考・表現→記述・発表
☆ノート記述の仕方を具体的に示しながら考えのまとめ方を定着させていく。

単元を通して「日なた」と「日かげ」はどのようにちがうのだろうか

第1次「みんなでかげとあそんでみよう」(1)

- ☆「かげ」と遊ぶよ～かげふみをしよう【感性・意欲・態度】
「かげ」はどんなふうに見えるのかを知りたい。～「かげふみ」を通して「かげ」をふみながら遊ぶよ。
- ☆「かげ」の向きと太陽の見える向きはどうなっているの(1)【技能】
太陽の動きと、安全に太陽の動きを見ることが出来るよ。
- ☆「かげ」の向きはどうなっているの(2)【知識・理解】
太陽と反対側に「かげ」ができることがわかるよ。

言語化：「かげふみ」を通して、「気付いたこと」や「わかったこと」を「交流」する。

学習する前は「ふしぎなぞ、知りたいな」

- 「日なた」と「日かげ」は、どんなことがちがうのかな？
- 「かげ」では、どうして「かげ」ができないのかふしぎだな。
- 温度計を使って温度を測って、日なたと日かげについて調べてみたい。
- 「太陽」のことをもっと詳しく知りたい。

言語化：「事前アンケート」へ「知りたいこと」「やってみたいこと」などを記述する。

〈言語化の過程を意図した単元構想〉

児童の記述からは、ノート記述の仕方がだんだんと身に付いてきていることが確かめられた。特に、比べながら記述したり、表や図を使って自分なりにまとめたたりしていることがよくわかった。

まだまだノートの記述の仕方是不十分であるが、実験結果からわかったことを発表する姿勢が以前に比べて積極的になってきた。記述と発表内容とが完全に一致しない児童も見られるが、このような指導の繰り返しによって、徐々に考える力が高まっていくものと考えたい。

また、同じ班の仲間と「僕たちの班の結果からわかったことは、日なたは日かげより温度が高いことだね」と、結果をもとにして交流をする様子も見られた。自分の結果をもとに考察として記述したことに自信をもった児童が多くなってきたようだ。今後さらに、授業における児童の学びの変容を追跡し、より効果的な指導の在り方を探っていききたい。

二、成果と課題

○「言語化の過程」を意図した「単元構想」により、ノート記述の豊かさや発表交流の意欲化へとつながり、それらを児童の姿の変容から捉えることができた。

○「言語化」の中でも、「ノート記述」に関する指導を重点的に行ったことで、根拠を明確にしたり、結果を比較したりしながら、科学的に考察し表現できる児童が増えてきた。

○「記述内容」「発言内容」はもとより、「観点別評価テスト」の「結果」等から、児童の「科学的な見方や考え方」が客観的な数値からも高まっている傾向が認められた。

●「言語化」が目的とならないように、手段としての「言語化」であることを十分に認識した上で、「科学的な見方や考え方」との相関関係について、さらに実践し検証していく必要がある。

(文責：岐阜県同窓会)

- ① ノートは、1時間に左と右のあわせで2ページを使って書く。
- ② 結果とそれからわかったこと、考えたことを分けて書く。

この2つの視点は、児童の思考の流れに沿ってノート記述ができるようにしたものである。さらに、児童が毎時間の授業の中で、科学的な思考を高め

ていけるように、ノートの記述形式と

板書形式とを一体化させていくことに

した。特に、実験の結果・考察におい

ては、結果と考察を区別して記述した

り、自分の考えを加えて書いたりする

ように指導を重ねた。

児童の記述からは、ノート記述の仕

方がだんだんと身に付いてきているこ

とが確かめられた。特に、比べながら

記述したり、表や図を使って自分

なりにまとめたたりしているこ

とがよくわかった。

またまだノートの記述の仕方は不十分であるが、実験結果からわかったことを発表する姿勢が以前に比べて積極的になってきた。記述と発表内容とが完全に一致しない児童も見られるが、このような指導の繰り返しによって、徐々に考える力が高まっていくものと考えたい。

大学院修了生等の教育実践研究活動に係る表彰実施

本表彰事業は平成22年度から実施しています。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科の修了生本人、または構成員とする団体の教育実践研究活動等における顕著な成果や功績に対し、学長と同窓会長の連名において表彰を行うものです。

【推薦から受付までの流れ】 推薦方法

大学院同窓会役員が推薦できます。

・被表彰者の推薦

大学院同窓会役員会の議を経て被推薦者が決定します。

・被表彰者

兵庫教育大学都道府県連携推進本部会議の議を経て学長が決定します。

22年度受賞されたのは8名(嬉野賞5名、奨励賞3名)、23年度は6名(嬉野賞2名、奨励賞4名)の下記の方々です。

詳しくはホーム・ページの「兵庫教育大学大学院修了生等の教育実践研究活動等に係る表彰実施要項」をご覧ください。

教育実践研究活動等に係る受賞者

22年度受賞者 (50音順)

	氏 名	修了年月(期)	専攻・コース名	受 賞 理 由
嬉野賞	池田 芳和 (東京都)	昭和61(1986)年 3月(5期)	教科・領域教育学専攻 社会系コース	平成19年度全国連合小学校会会長を務め、マネジメント機能を最重視した学校経営改革を全国規模で啓発推進した。
	下山田 隆 (佐賀県)	平成8(1996)年 3月(15期)	教科・領域教育学専攻 自然系コース	植物図鑑の共著執筆をはじめ、科学分野の教育研究また開発教材を多く発表してきた。県内外の教育関係機関から研修指導の委託を受け、科学教育の普及活動に努めている。
	武 泰 稔 (岡山県)	昭和57(1982)年 3月(1期)	学校教育学専攻 教育経営コース	岡山県小田郡矢掛町教育長。岡山県町村教育長会会長、全国町村教育長会副会長を務めるなど広く教育行政の推進に寄与している。
	辰田 芳雄 (岡山県)	昭和63(1988)年 3月(7期)	教科・領域教育学専攻 社会系コース	日本中世史に関する研究は高く評価されている。高校教諭として教材開発や教育実践が顕著であるとともに、発表する多くの論文で社会科教育の充実に大きく貢献している。
	壺内 明 (東京都)	昭和57(1982)年 3月(1期)	学校教育学専攻 教育方法コース	平成20年度全日本中学校長会会長を務める。学習指導要領改訂移行期の教育課程編成をはじめ学校経営の工夫について研究推進し、啓発に尽力した。
奨励賞	梶谷 光弘 (島根県)	昭和63(1988)年 3月(7期)	学校教育学専攻 教育基礎コース	華岡青洲に師事した郷土の先人を研究することに発し、華岡流医術の解明に至る研究業績によって、郷土史研究の発展に尽くした。
	谷井 紀夫 (愛媛県)	平成元(1989)年 3月(8期)	教科・領域教育学専攻 言語系コース	大学院在学時から、短詩型表現力を育成する教育を追究してきた。指導法の工夫・開発と教育実践を重ね、短詩の普及と指導者育成に果たした功績は大きい。
	平松 義樹 (愛媛県)	昭和57(1982)年 3月(1期)	教科・領域教育学専攻 社会系コース	教職研修の指導者として教員育成や学校支援に長年尽力し、教育実践研究における第一人者と認められている。

23年度受賞者 (50音順)

	氏 名	修了年月(期)	専攻・コース名	受 賞 理 由
嬉野賞	臼井 英治 (岡山県)	昭和58(1983)年 3月(2期)	教科・領域教育学専攻 社会系コース	文化史専門領域の単著・編著を執筆、また論文を多数発表する。岡山市文化奨励賞を受賞する。
	河村 龍弐 (山口県)	昭和58(1983)年 3月(2期)	学校教育学専攻 教育経営コース	教育研究者として単著・共著・論文等を多数発表し、後進の指導に顕著な実績を上げている。社会活動も広く展開し、青少年の健全育成にも尽力する。
奨励賞	浦辻 洋一 (愛媛県)	平成4(1992)年 3月(11期)	教科・領域教育学専攻 自然系コース	自然観察研修、へき地教育実践の指導者として多種豊富な実績があり、教育育成にも貢献する。関連叢書の分担執筆が頻繁である。
	西住 徹 (兵庫県)	平成2(1990)年 3月(9期)	教科・領域教育学専攻 社会系コース	政治学博士。専門の日本現代政治学において、また教育学の研究者として、単著・共著・論文等多数。北村徳太郎研究の第一人者と評価されている。
	林 保 (広島県)	昭和61(1986)年 3月(5期)	教科・領域教育学専攻 生活・健康系コース	県中学校長会会長や全中学校長会の要職を歴任する。教育実践研究レポートや編著書の執筆、また教育講演の実績が多数ある。現在、熊野町教育長。
	前田 紘二 (大阪府)	平成2(1990)年 3月(9期)	教科・領域教育学専攻 芸術系コース	合唱教育の普及に貢献した。主宰する音楽教育研修会が教師塾へと発展し、人材育成にも大きな成果を上げる。



23年度受賞された皆さん

編集後記

会報を読み直してみても、震災の地で今も懸命に職務を遂行している教職員仲間やけなげに頑張っている児童生徒に思いをはせ続けることの大切さ、伝統を受け継ぐ厳しさとすばらしさに裏打ちされた日本文化の奥深さを改めて感じています。そして、何かの縁でせつかく命を頂いたのでから「自らとともによりよく生きたいものだ」とも思っています。

次号から島根県支部の担当になります。第30号からの7年間のご愛読、誠に有難うございます。そして、多くの方々のご支援・ご協力に感謝します。7月28日・29日の兵庫大会で、多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしております。(山口県 西川敏之)

役 員 等 名 簿

自 平成23年6月1日～至 平成25年5月31日

役 職 名			氏 名		ブロック名	各 県 評 議 員											
顧 問		梶田 叡一(第6大学長)				北海道	岩手県が兼務	富 山	森山	義人	奈 良	和田 光昭	大 分	有定	裕雅		
		加治佐哲也(現学長)				青 森	西澤 亨一	石 川	沼田	良一	和歌山	西端 幸信				宮 崎	中原 邦博
参 与		武 泰稔(岡山)				岩 手	川村 庸子	福 井	杉田	和一	鳥 取	田中 健	鹿 児 島	市 来	公 洋		
		酒巻 成欣(大阪)				宮 城	遠藤 茂	山 梨	梶原 正史	島 根	岩田 進	沖 縄				松 川	隆 夫
		塩瀬 昌雄(大阪)				秋 田	石垣 隆孝	長 野	笠原 忠照	岡 山	佐々木 勇						
		吉田 廣(兵庫)				山 形	和田 妙子	岐 阜	玉木 隆	広 島	大畑 和典						
		右藤 和弘(和歌山)				福 島	永嶋 啓一	静 岡	永田 研	山 口	石川 芳己						
会 長		大橋 博(兵庫)				茨 城	吉田 重郎	愛 知	鈴木 均	徳 島	田村 明敏						
副 会 長	総務部	石井 生滋(兵庫)	近 畿 ①		栃 木	大島 壽	三 重	豊住 誠	香 川	野島 悟							
	会計部	北山 鎮道(岡山)	東中国・四国		群 馬	青木 雅夫	滋 賀	田中 吉巳	愛 媛	清田 公典							
	研究部	中尾 豊喜(大阪)	近 畿 ②		埼 玉	松尾 鉄城	京 都	田端 孝司	高 知	川崎二三雄							
	広報部	西川 敏之(山口)	西 中 国		千 葉	柳生 和男	大 阪	柴山 雅由	福 岡	西河 武							
	事業部	和田 光昭(奈良)	近 畿 ③		東 京	小山田 穰	兵 庫	久保 哲成	佐 賀	草場 聡宏							
組 織 部	勝俣 得男(静岡)	中部・東海		神奈川	児玉 祥一	兵 庫	船本 秀忠	長 崎	橋本 郁朗								
	齋藤 俊太(23前期)	院生協会長		新 潟	碓井 欣一	神 戸 市	伊藤 善文	熊 本	八間川隆彦								
監 事		◎望月 茂(静岡) 川合康司(兵庫) 中根弘之(岐阜) 畑中佳美(京都) 小西豊文(大阪) 中園大三郎(大阪) 中本幸美(大阪) 塚崎博行(兵庫) 廣岡俊二(兵庫) 岡崎 弘(和歌山) 早川 求(島根) ◎は監事長															
		ブロック名	ブロック長	副ブロック長	担当部	各部担当者氏名(理事)											
各 ブ ロ ッ ク 代 表 者 氏 名	北 海 道 ・ 東 北		川村 庸子(岩手)	西前 弘幸(岩手)		西前 弘幸(岩手) 菅原 廣次(宮城)											
	関 東		石井 清文(東京)	大島 壽(栃木) 松尾 鉄城(埼玉)		荒井 豊(埼玉) 壺内 明(東京)											
	中 部 ・ 東 海		◎ 鈴木 均(愛知) (◎印は代表)	山田 達夫(静岡)	組織部 (6名)	杉田 和一(福井) 幸脇 直久(岐阜) 玉木 隆(岐阜) 森 社(岐阜) 勝俣 得男(静岡) 豊住 誠(三重)											
	近 畿 ① (滋賀・京都・兵庫)		新居 寛(兵庫)	田中 吉巳(滋賀) 畑中 佳美(京都) 伊藤 善文(神戸)	総務部 (8名)	松村 喬(滋賀) 竺沙 敏彦(京都) 石井 生滋(兵庫) 伊藤 泰弘(兵庫) 谷口 大三(兵庫) 得能 弘一(兵庫) 船本 秀忠(兵庫) 森 一郎(兵庫)											
	近 畿 ② (大 阪)		大槻 雅俊(大阪)	塩見 能和(大阪) 柴山 雅由(大阪)	研究部 (6名)	太田 久(大阪) 田窪 豊(大阪) 武井 英明(大阪) 立津 政宏(大阪) 中尾 豊喜(大阪) 長井 勘治(大阪)											
	近 畿 ③ (奈良・和歌山)		岡崎 弘(和歌山)	和田 光昭(奈良) 川崎 寛(和歌山)	事業部 (7名)	上西 一郎(兵庫) 菅野 恭介(兵庫) 田中 嘉明(兵庫) 岸本 秀章(奈良) 和田 光昭(奈良) 西端 幸信(和歌山) 浜野 重治(和歌山)											
	西 中 国 (山口・島根・広島)		勝田 章(島根)	柿手 宣昭(広島)	広報部 (6名)	藤原 尚幸(島根) 毛利 直巳(島根) 市川 博登(広島) 久樂 信吾(山口) 西川 敏之(山口) 藤本 浩行(山口)											
	東 中 国 ・ 四 国 (岡山・鳥取・四国)		清田 公典(愛媛)	佐々木 勇(岡山)	会計部 (4名)	安治 紘紀(鳥取) 北山 鎮道(岡山) 佐々木 勇(岡山) 谷井 紀夫(愛媛)											
	九 州 (沖縄を含む)		大坪 文二(宮崎)	草場 聡宏(佐賀)		草場 聡宏(佐賀) 野中 純(長崎) 有定 裕雅(大分)											
事 務 局 長		伊藤 泰弘(兵庫)		役員等総数78名(院生代表及び評議員の31名(兼務者17名を除く)は含まない。)													

第31回兵庫教育大学大学院同窓会・岐阜大会



第31回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（岐阜大会） 平成23年8月20日 於 鵜匠の家すぎ山



▲ 総 会



▲ 懇 親 会

次回は

兵庫大会で

集おう

期日：平成24年7月28日(土)

～29日(日)

会場：神戸第一楼



▲ 巡 検